

週間漁海況情報—第3号

平成25年1月21日

内容は水産研究所ホームページ <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/suiken/> で公開され、毎週月曜日夜間に更新します。

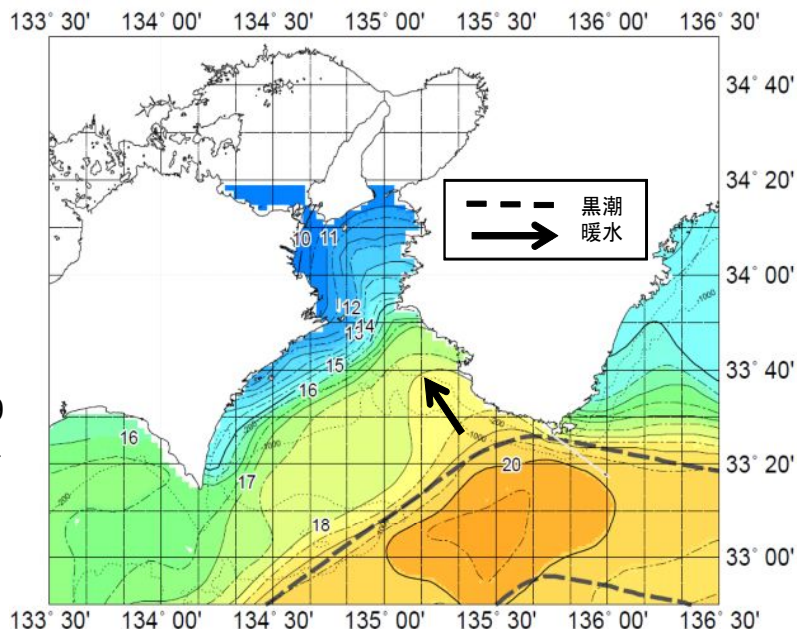
徳島県立農林水産総合技術支援センター
水産研究所

1. 海況の経過

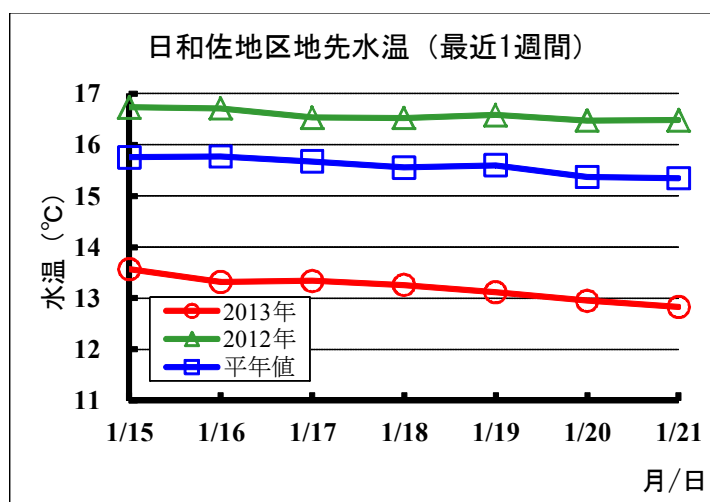
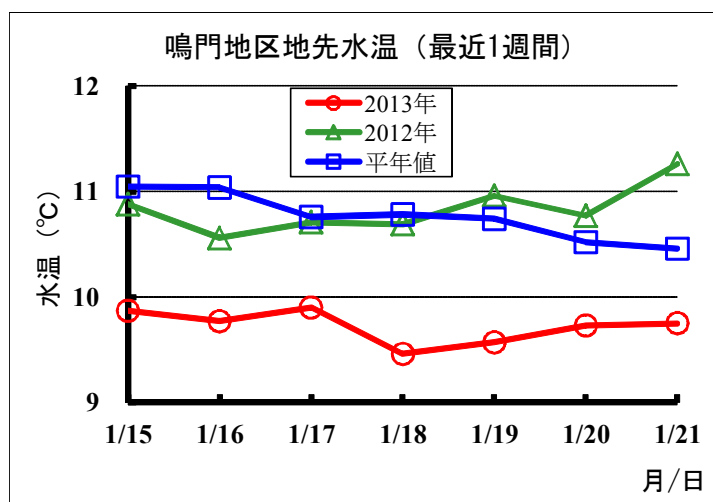
右に千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、三重県及び和歌山県が共同で作成した海況図（H25.1.21）を示した。

黒潮は、室戸岬沖でやや離岸、潮岬沖で接岸している。

黒潮本流の表面水温は、20℃台である。徳島沿岸の表面水温は、播磨灘で9～10℃台、紀伊水道で9～13℃台、海部沿岸で12～17℃台である。紀伊水道外域では、和歌山県沿岸から18～19℃台の暖水流入が見られる。



地先水温 最近1週間の地先水温は、鳴門地区は「やや低め」の9.5～9.9℃、日和佐地区は「かなり低め」～「低め」の12.8～13.6℃、牟岐地区は「かなり低め」の11.5～12.0℃で推移した。



* 水温偏差の目安

平年並み：±0.49以下、やや高め（やや低め）：±0.50～1.49、高め（低め）：±1.50～2.49、かなり高め（かなり低め）：±2.50以上

2. 漁況の経過

延縄：海部沿岸で、中主体にアカムツが0.2トン（1日1隻あたり20kg）、大主体にキダイが0.3トン（同8kg）、大主体にサバフグが0.3トン（同16kg）、カワハギが0.3トン（同92kg）水揚げされた。

小型定置網：海部沿岸で、キビナゴが1.0トン（同35kg）、小主体にマルアジが0.4トン（同27kg）、メジナが1.8トン（同100kg）、スズキ類が0.3トン（同14kg）、アオリイカが0.5トン（同6kg）水揚げされた。

大型定置網：海部沿岸で、マメ主体にマアジが0.3トン（同34kg）、小主体にゴマサバが1.2トン（同135kg）、特大主体にイサキが0.4トン（同40kg）、中主体にメジナが0.3トン（同29kg）、中主体にアオリイカが0.6トン（同69kg）、中主体にスルメイカが1.5トン（同164kg）水揚げされた。

釣り：海部沿岸で、メジロが0.4トン（同26kg）、大主体にアオリイカが0.3トン（同9kg）水揚げされた。

漁業種類別集計表（抜粋） 1月14日～1月20日

県下6漁協から聞き取り

漁業種類	漁獲海域	魚種	延べ出 漁隻数	漁獲量(kg)	1日1隻当たり 漁獲量(kg)	銘柄・その他
延縄	海部沿岸	アカムツ	11	221	20	中主体
		キダイ	33	276	8	大主体
		サバフグ	18	280	16	大主体
		カワハギ	3	277	92	
小型定置網		キビナゴ	29	1,011	35	
		マルアジ	16	438	27	小主体
		メジナ	18	1,805	100	
		スズキ類	19	267	14	
		アオリイカ	86	542	6	
大型定置網		マアジ	9	309	34	マメ主体
		ゴマサバ	9	1,211	135	小主体
		イサキ	9	357	40	特大主体
		メジナ	9	264	29	中主体
		アオリイカ	9	618	69	中主体
		スルメイカ	9	1,472	164	中主体
		釣り	メジロ	16	420	26
アオリイカ			38	326	9	大主体

昨年同時期の主な漁獲傾向：昨年の1月16日～1月22日には、海部沿岸では、延縄で、大主体にサバフグが0.2トン、小型定置網で、アオリイカが0.4トン、カタクチイワシが0.8トン、中主体にスズキ類が0.2トン、マルソウダが0.6トン、メジナが0.5トン、大型定置網で、小主体にシイラが0.2トン、大主体にヒラソウダが0.3トン、マルソウダが0.6トン、マアジが0.3トン、釣りで、小主体にゴマサバが0.2トン水揚げされた。

週間予報：黒潮は、室戸岬沖で「やや離岸」、潮岬沖において「接岸」で推移する見込み。地先水温は、鳴門地先で「やや低め」の9℃台、日和佐地先で「かなり低め」～「低め」の12℃台で推移する見込み。